HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Christian Personality論形成への一考察
Author(s)	中村, 陽三
Citation	基督教学, 4, 62-65
Issue Date	1969-07-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46240
Type	journal article
File Information	4_62-65.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Christian Personality 論形成への一考察

中村陽三

(I) 問題提起

私がここで提起したのはキリスト教々育の原理としては G. Bohne[1] や G. A. Coe[2] の教育理論によりながら、キリスト教々育を諸科学の成果をふまえて実証的に再構成しようという試みである。ここに諸科学とは教育学、教育心理学、宗教心理学などを指す訳であるが、それらの理論の中で、キリスト教々育に科学性を与える理論として personality 論を援用する。この試みに当ってキリスト教々育が実証科学として成立しうる限界性について触れておかねばならないが、これについては P. Tillich が信仰を定義して〈人格的自我の全体的中心活動〉であると規定したように[3]、その限りに於いて心理学などの諸科学の研究対象となりうるという立場を前提として論をすすめる。

(II) personality 論分析

ここで personality という概念を導入するのは personality という人格概念を導入する事によって〈Sein としての Christian〉をより科学的に把握できるという考えによっている。とくに教えられるのは Linton, Cattell, Allport, Johnson, 岩村信二らの personality 論である。かんたんな Comment を記しておく。

Linton[4] で注目したいのは personality を basic personality type と status personality type とに識別しているが、共通の価値を含んだ状況に対して一致した情緒

的反応を示しうるようにさせているものとして basic personality type を考えている点である。この考えは、christian という人格を personality 論でみようとする時、共通の価値観をもち合った者同志としてもっている christian basic personality type とでもいうべきものを発想する手がかりを与える。

Cattell では[5]、Allport にならって、personality を諸習性の相互関係の総体としてとらえ、trait を大きく central trait と peripheral trait に分け、central trait として様々なものを列挙している。そしてそれらの central trait の中の一つが特に強大となって他の trait を支配するとき、支配的習性というものが形成されるといっている。この論は christian personality を発想する時、その typical type を考える際に有力な手がかりを与える。

Allport では[6]、人格の発達性を重視し、その process の中に宗教心の成長をみようとしている。そして宗教的な personality とは生の現実をある包括的な世界観で統一することだとしている。特に Allport が成熟という概念で personality を dynamic にとらえようとしていることは大きな示唆を与える。つまり、宗教心の成長を固定的にではなく発達的にとらえていこうという発想への基礎理論を与える。

Johnson[7] は personality の中心に〈内的自我〉(person) を考え、これを dynamic な諸関係を通して行われる価値追求体験のユニークな中心と考えている。そして、この〈内的自我〉が多次元的な諸欲求をみたしつつ、価値の実現をはかるという personality 構造を考えており、その次元としておよそ四つのものをあげている。この四つの次元の中、注目したいのは、我 (I) となんじ (Thou) との関係によってとらえられる personality である。彼によれば、様々な動機づけが機能的自律性 (Allport の functional autonomy) を獲得し、究極的なものとして創造主を示す創造的統合という成熟的段階に到達すると考えており、ここでのなんじ (Thou) とは究極的権威をもったものであり、これが内的自我の求めているものであるという。この次元では宗教は personality の形成に対して〈統合性〉(wholeness) を与えるという点で積極的に

評価される。

岩村信二[8]は Allport の personality 論の影響をうけ、キリスト教的人格がいわゆる〈全き人〉を目標とした全人間的な発達を志向したものだとして、信仰者とは personality の全体を通じて神との交わりに入らされたものと定義されるとしている。そこで信仰とは単に精神などの上部構造に於いてその人が何を志向するかという一部分的作用ではなく、personality の全体構造的作用であるというのである。そして幼児期から青年期へと長ずるに従い、上部構造の精神の分化と共に、信仰の発現が精神の諸機能に移り、下部構造をコントロールした形で成長していくと考える。

以上の諸論をふまえて、personality の一つの pattern として christian personality を定立することが可能である。

(III) christian personality 論の形成と二領域

personality について学問的定義が多様なものである如く、ここで christian personality を一義的に定義することは不可能である。

にもかかわらず、次のような諸点をふまえて christian personality 論の形成が可能となる。

(1) 信仰における dynamism を前提とした上で static には Linton の basic personality type 又は value attitude system という概念を導入することによって、S. Neill のいう christian character[9] のいくつかの index を用いて christian personality という pattern を想定しうる。

(2) 仮設として、Cattell の分類に従い、いくつかの central trait の中、Neill の示すような trait が cardinal trait として central trait を形成したとき typical type としての christian personality を想定できる。

(3) Allport, Johnson の指摘によって明らかなように personality 形成の process で信仰が wholeness を与えるという論にたてば、成長への process を分析するという作業の中で functional autonomy をもって成熟していくその発達的 dynamism の中で、christian peasonality を位置づけることが可能である。

(4) 以上のような approach を可能ならしめる道として、宗教心理学の理論、キリスト教々育理論に裏づけされた社会学的調査が本論をゆたかにしていく学問的方法であると考えている。

又、christian personality 論の取扱う領域としては、個人の精神発達における成熟などを中心課題として、キリスト教主義学校などにみられる人間形成に於ける発達的面を扱う領域と、教会集団などにみられる、他の機能的社会集団との接触に於いて示されるキリスト者集団としての行動特性を示す類型的側面を扱う領域とが考えられる。

(1) 例えば G. Bohne: Grundlagen der Erziehung 1951 を参照。

(2) 例えば G. A. Coe: A Social Theory of Religious Education 1917 を参照。

(3) P. Tillich: Dynamics of Faith 1957 (谷口美智雄訳「信仰の本質と動態」1961, p. 19)。

(4) Linton: The Cultural Background of Personality 194 5, (邦訳 1952) を参照。

(5) Cattell の所説は、南博: 社会心理学 1949 を参照。

(6) Allport: Personality—a psychological interpretation 1937. The Individual and his Religion 1950 (邦訳 1953) などを参照。

(7) Johnson: Personality and Religion 1957, (邦訳 1967) を参照。

(8) 岩村信二: クリスチャンパーソナルテイ論への発展 1963, (教団宣教研究所編: 現代日本におけるキリスト教的人間像 p. 142), キリスト教幼児教育の神学的検討 1967, (教団宣教研究所編: キリスト教幼児教育の原理 p. 72), クリスチャンパーソナリテイの目標 1968, (日本キリスト教々育研究所編: 人間の教育、創刊号、p. 22) などを参照。

(9) S. Neill: The Christian Character 1955, (邦訳 1963) を参照。